

令和 7 年 度

授 業 計 画

～ シ ラ バ ス ～

1 年（ 普通科 ）

静岡県立富士宮北高等学校

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	現代の国語	2	1 年	普通科・商業科

使用教科書	副教材等
現代の国語（大修館書店）	現代の国語 学習ノート（大修館書店） トータルサポート新国語便覧（大修館書店） カテゴリー別 コトバ漢字（浜島書店）

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。
評価方法	
小テスト、定期テスト(①、②、③) ワークシート(②、③) 論述、発表(①、②、③)	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・中間	言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢を作る。	「考える技術」	言葉の意味内容をあらためて考え、認識や思考と言葉との関係を理解している。	○		
			「読むこと」において、内容や論理の展開について叙述をもとに的確にとらえている。		○	
			積極的に、学習課題に沿って、「考える」という概念がどのようなものとして定義されているか把握しようとしている。			○
	文章の要点をつかむ。	「文章の要点をつかむ」 「水の東西」	比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。	○		
			個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	○		
			「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確にとらえ、要旨や要点を把握している。		○	
			積極的に、学習課題に沿って、具体や抽象、対比の関係をとらえようとしている。			○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 期末	聞き手が理解しやすい説明の仕方を考え、過不足なく伝える。	「設計図を最初に渡せ！」 「伝わるように話す」	話し言葉の特徴や相手に配慮した表現について理解している。	○		
			「話すこと」において、話し言葉の特徴を踏まえ、相手が理解しやすいように表現を工夫して話している。		○	
			口頭での説明を通して、話し言葉の特徴を踏まえ、相手が理解しやすい表現を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。			○
	根拠を明確にし、構成や展開を意識して文章を書く。	「発想を広げる」 「意見を書く」	文例および自分の作文において主張と根拠を指摘できている。	○		
			「書くこと」において、論理展開を工夫し、読み手が理解しやすい文章が書けている。		○	
			意見文の相互評価および単元の総括を通して、学習の状況を積極的に把握しようとしている。			○
2 学期・ 中間	文章の論理をとらえる。	「文章の論理をとらえる」 「動的平衡としての生物多様性」	主張と論拠などの情報と情報との関係や、推論の仕方について理解している。	○		
			「読むこと」において、本文における情報の関係に注意しながら、内容や論理の展開について叙述をもとに的確にとらえている。		○	
			論理的な文章を読むことを通して、情報の関係や推論の仕方に注意しながら内容や展開を把握することに粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。			○
	統計資料を正確に読み取り、統計資料を根拠として、自分の主張を書く。	「統計資料をもとに意見を書く」	根拠として統計資料を引用することの必要性を理解している。	○		
			「書くこと」において、主張を支える根拠として統計資料から適切な情報を抽出できている。		○	
			意見文の振り返りおよび単元の総括を通して、学習の状況を積極的に把握しようとしている。			○
2 学期・ 期末	資料と文章の関係を読む。	「資料と文章の関係を読む」 「『安くておいしい国』の限界」	文章と図表の情報がどのような対応関係にあるかを理解している。	○		
			「読むこと」において文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら内容を解釈するとともに、自分の考えを深めている。		○	
			図表を伴う文章を読むことを通して、それぞれの情報を相互に関連付けて内容を粘り強く解釈し、自分の意見を深める中で、自らの学習を調整しようとしている。			○
	説得力のある資料をつくり、効果的に発表する。	「説得力のある資料をつくる」 「資料を用いて発表する」	実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法および表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○		
			主張と論拠などの情報と情報との関係について理解している。	○		
			「書くこと」において、自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。		○	
			積極的に、課題に沿った「提案に必要な要素」を挙げようとしている。			○
			話し言葉の特徴や役割をふまえ、わかりやすさ、適切さ、親しさなどに配慮した言葉遣いで話している。	○		
			話の効果的な組み立て方や接続の仕方について、理解している。	○		
			「話すこと・聞くこと」において、聞き手の行動の変容を促すために、相手の反応を予想しながら、話の展開や構成を工夫して伝えている。		○	
			「話すこと・聞くこと」において、提示する情報を取捨しながら資料を効果的に用いて、相手の理解が得られるように表現を工夫している。		○	
			熱意をもって自分の考えを伝えるために、話の展開や構成を工夫したり、効果的に資料を用いたりしようとしている。			○

学 年 末	主張を 吟味する。	「根拠を吟味して 読む」 「贅沢を 取り戻す」	情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使っている。	○		
			「読むこと」において、目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や聞き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。		○	
			情報の信頼性や妥当性を吟味しながら読もうとしている。			○
	他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。	「文章を読み取って主張を書く」	読み手に伝わりやすい主張の組み立て方について理解している。	○		
			「書くこと」において、読み手からの評価を踏まえ、自分の意見文の特長・課題を把握している。		○	
			意見文の振り返りおよび単元の総括を通して、学習の状況を積極的に把握しようとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
国語	言語文化	2	1年	普通科

使用教科書	副教材等
言語文化（大修館書店）	言語文化 学習ノート（大修館書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） みるみる覚える古文単語300＋敬語30（いっずな書店） 漢文必携（桐原書店） トータルサポート 新国語便覧（大修館書店）

科目の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。 (3)言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。
② 思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	生涯にわたって読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。
評価方法	
小テスト、定期テスト(①、②) ワークシート(②、③) 論述、発表(①、②、③)	

学習計画					評価の観点		
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標		①	②	③
1学期・中間	作品の構成や展開をとらえる。	「羅生門」	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。	○			
			言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解しようとする。				○
			文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。		○		
			文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えようとする。				○
	古文に親しむ。	「田舎の児、桜の散るを見て泣くこと」 「児のそら寝」 『宇治拾遺物語』	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。	○			
			古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解しようとする。				○
			文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。		○		
			文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しようとする。				○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 期末	古人の優れた感性に触れ、現代の美意識と比較する。	「九月ばかり」 「雪のいと高う降りたるを」 『枕草子』	時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深める。	○		
			時間の経過による文字や言葉の変化について理解を深めようとする。			○
			作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。		○	
			作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとする。			○
	漢文に親しむ。	『論語』 『孟子』	古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。	○		
			古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解しようとする。			○
			作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。		○	
			作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようとする。			○
2 学期・ 中間	作品における表現の仕方に着目する。	「短歌 十五首」 「俳句 十二句」	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深める。	○		
			我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深めようとする。			○
			集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にする。		○	
			集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしようとする。			○
	物語の内容を読み取り、登場人物の関係を理解する。	「芥川」 「あづま下り」 『伊勢物語』	文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。	○		
			文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解しようとする。			○
			作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。		○	
			作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようとする。			○
2 学期・ 期末	故事成語の意味や背景について理解を深める。	「蛇足」 「完璧」 「臥薪嘗胆」	古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。	○		
			古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解しようとする。			○
			作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深める。		○	
			作品や文章の成立した背景を踏まえ、内容の解釈を深めようとする。			○
	和歌の表現の特徴について理解を深める。	『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』	本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解する。	○		
			本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解しようとする。			○
			作品の内容や解釈を踏まえ、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。		○	
			作品の内容や解釈を踏まえ、我が国の言語文化について自分の考えをもとうとする。			○
学 年 末	作品と作者、社会との関係について理解を深める。	『城の崎にて』 『セメント樽の中の手紙』	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。	○		
			言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解しようとする。			○
			我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深める。	○		
			我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めようとする。			○
			文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価する。		○	
			文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しようとする。			○

学 年 末	古人の旅の状況について理解を深める。	「門出」 『土佐日記』 「あこがれ」 『更級日記』	古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解する。	○		
			古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解しようとする。			○
			作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。		○	
			作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとする。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
地歴公民	歴史総合	2	1 年	普通科

使用教科書	副教材等
新選歴史総合（東京書籍）	歴史総合ワークノート（東京書籍） 新詳歴史総合（浜島書店）

科目の目標
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。近現代の歴史の変化に関わる諸事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に研究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して滋養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	世界と其中的の日本を相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する情報を適切に調べまとめる技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組もうとしている。よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。
評価方法	
授業ノート、プリント類の記述やグループワークへの取組状況 各種テスト（定期テスト、実力テスト、小テスト） 授業の振り返りシート（単元のまとめの記述等） その他提出物等への取組状況、授業への取組状況等	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・中間	第1章 歴史の扉	1節 歴史と私たち 2節 歴史の特質と資料	諸資料を活用し、私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解する。	○		
		1節 近代化への問い 2節 結び付く世界と日本の開国	日本や世界のさまざまな地域の人々の歴史的な営みの痕跡や記録である遺物、文書、図像などの資料を活用し、資料に基づいて歴史が叙述されていることを理解する。	○		
	第2章 近代化と私たち	1 18世紀の東アジア 2 結び付くアジア諸地域 3 18世紀のヨーロッパとアジア	交通と貿易、産業と人口、権利意識と政治参加や国民の義務、学校教育、労働と家族、移民などに関する資料から、情報を読み取ったりまとめたりし、近代化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。		○	
		4 産業革命のはじまり 5 世界市場の形成 6 東アジア国際関係の変化と日本の開国 7 世界経済の変化と日本の産業革命	18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。		○	
			18世紀のアジア諸地域にどのような文明があり、それぞれがどのような経済関係を形成していたのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。		○	

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 期末	第2章 近代化と私たち	3節 国民国家と明治維新 1 市民革命と近代社会 2 自由主義とナショナリズム 3 アジアの諸国家とその変容 4 明治維新と東アジアの国際関係 5 立憲制の広まり 6 帝国主義と植民地 7 日清戦争と華夷秩序の解体 8 帝国主義諸国の競合と国際関係 9 植民地支配と植民地の近代 10 20世紀はじめの世界 4節 近代化と現代的な諸課題の台頭	政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを考察・表現し、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○		
			帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを考察・表現し、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容について理解する。	○		
			事象の背景や原因、結果や影響などに着目し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりし、多面的・多角的に考察・表現する。		○	
			近代化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとしている。			○
2 学期・ 中間	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	1節 国際秩序の変化や大衆化への問い 2節 第一次世界大戦と大衆社会 1 大衆社会の時代 2 第一次世界大戦の展開 3 国際協調体制の形成 4 ソヴィエト連邦の成立と社会主義 5 アメリカ合衆国の台頭と大量消費社会 6 アジアの経済成長と移動する人々 7 反植民地主義の高揚と国際秩序の変容 8 民主主義の拡大と社会変革の動き 9 マスメディアの発達と日常生活	国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭、植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料を活用し、国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について多面的・多角的に考察し、問いを表現する。	○		
			第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジアおよび太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。		○	
			大衆化によって、人々の生活がどのように変化したのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。		○	
			総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制について、大衆社会の形成と社会運動の広がりについての問いを踏まえて、見通しを持って学習に取り組もうとしている。			○
2 学期・ 期末	第3章 国際秩序の変化や大衆化と私たち	3節 経済危機と第二次世界大戦 1 世界恐慌 2 アジア・アフリカと大衆社会 3 国際協調体制の崩壊 4 日中戦争と深刻化する世界の危機 5 第二次世界大戦の勃発 6 第二次世界大戦における連合国と戦後構想 7 アジア太平洋戦争と日本の敗戦 8 連合国の占領政策と冷戦 9 再編されるアジアと冷戦 4節 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際協調体制の動揺を理解する。	○		
			第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。		○	
			国際協調体制の動揺についての問いを表現し、小単元の学習の見通しを立てる。			○
			世界恐慌が発生した原因とそれに対する各国の対応について動揺しつつある国際協調体制下での、アジア・アフリカ諸国の人々の対応について理解する。	○		
			国際協調体制の動揺の中で、アジア・アフリカ諸国の人々がどのように自立化を模索し、大衆運動を活発化させていったのかについて、諸資料から読み取り、多面的・多角的に考察し、表現する。		○	

学 年 末	第4章 グローバル化と私たち	1節 グローバル化への問い	地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、国際政治の変容を理解する。	○		
		2節 冷戦と世界経済 1 冷戦の拡大と第三勢力 2 キューバ危機と核兵器の管理 3 脱植民地化の進展と地域紛争 4 計画経済と開発 5 戦下の日本とアジア 6 日本と欧米先進国の経済成長 7 地域連携の拡大 8 ベトナム戦争と冷戦構造の変容	冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料を活用し、グローバル化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現する。		○	
		3節 世界秩序の変容と日本 1 問い直される近代 2 石油危機と経済の自由化 3 アジアの経済発展と日本 4 冷戦の終結と世界 5 拡散する地域紛争 6 民主化の進展 7 グローバル化と地域統合 8 岐路に立つ世界と日本	アジア諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、市場経済の変容と課題を理解する。	○		
		4節 現代的な諸課題の形成と展望	冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現することを通して、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。	○		
			科目のまとめとして、現代的な諸課題に関する主題を設定し、事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、歴史的経緯を踏まえて、持続可能な社会に向けて、現代的な諸課題の展望を探究する。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
地歴公民	公共	2	1 年	普通科・商業科

使用教科書	副教材等
公共（東京書籍） 新詳高等地図（帝国書院）	公共ワークノート（東京書籍） 2025 ズームアップ公共資料（実教出版）

科目の目標
人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
② 思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断すると同時に、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
評価方法	
記述の点検、確認、分析 行動の観察、確認、分析 （定期テスト、小テスト、ポートフォリオ、課題レポートやその他提出物、発表等への取組状況、授業への取組状況 等）	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 中間	第 1 部 「公共」のとりざら	1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画	自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。	○		
	第1章 公共的な空間をつくる私たち—社会のなかの自己	1 個人として尊重される人間 2 社会的な存在としての人間 3 伝統・文化のなかの人間	現代の諸課題について自らも他者もともに納得できる解決方法を見いだすことに向け、①に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解する。	○		
	第 2 章 公共的な空間における人間としての在り方生き方—共に生きるための倫理	1 功利主義と幸福の原理 2 義務論と公正の原理	人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取り、まとめる。		○	○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 期末	第3章 公共的な空間にお ける基本的原理— 私たちの民主的な 社会	1 公共的な空間における 協働とは 2 民主主義とは 3 立憲主義とは 4 人権保障の意義と展開	人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、 自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基 本原理について理解する。	○		
	第2部 自立した主体とし て社会に参画する 私たち 第1章 民主政治と私たち	1 私たちの民主政治 2 地方自治のしくみと役 割 3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割 5 政治参加と選挙 6 政党と利益集団 7 メディアと世論	公共的な空間における基本原理について、思考実験など 概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と 社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現 する。		○	○
2 学期・ 中間	第2章 法の働きと私たち	1 法と社会規範の役割 2 法の成立と適用 1 市民生活と法 2 多様な契約 3 消費者の権利と責任 1 司法のしくみと役割 2 刑事司法と司法参加の 意義	法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利 と責任、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や 課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範 に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個 人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権 利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成維持され ていくことについて理解する。	○		
	第3章 経済社会 で生きる私たち	1 私たちと経済 2 市場経済のしくみ 3 国民所得と経済成長	市場の機能と限界や課題の解決の在り方について多面的・ 多角的に考察、構想し、表現する。		○	○
2 学期・ 期末	第3章 経済社会で生きる 私たち	1 金融のしくみと働き 2 中央銀行の役割と金融 環境の変化 1 財政の働き 2 財政の課題 3 社会保障の考え方 4 社会保障の課題とこれ から	財政とは政府による経済活動であることの理解を基に、財政 には、資源配分の調整、所得や資産の再分配、経済の安定 化を行って国民福祉の向上に寄与する働きがあり、財政活 動に際しては、財政に投入された費用に対してそれから得ら れる効果を比較しながら最適 な政策を選択していく必要が あることを理解する。	○		
	第4章 私たちの職業生活	1 働くということ 2 多様な職業選択 1 労働者の権利 2 現代の雇用・労働問題	金融は個人の資産形成に関係する活動だけでなく、家計や 企業からの資金を様々な経済 主体に投資することで資本を 増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担 っている。このような金融を通じた経済活動の活性化の仕組 みや在り方を多面的・多角的 に考察、構想し、表現する。		○	○
学 年 末	第5章 国際社会のなかで 生きる私たち	1 国際社会の成り立ち 2 国際連合の役割 1 日本の平和主義と冷戦 2 冷戦後の世界と日本 1 現代の紛争とその影響 2 平和な国際社会に向け て 1 貿易のしくみ 2 国際金融のしくみと動 向 3 グローバル化と今日の 国際経済 4 国際経済の諸課題	国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含 む。)などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする 国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献、貿 易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際 収支、 国際協調の必要性や国際経済機関の役割について理解す る。	○		
	第3部 持続可能な社会づ くり参画するた めに	1 探究のイメージをつか もう 2 探究プロセス	現代の国際政治・経済に関わる諸課題について多面的・多 角的に考察、構想し、その過程 や結果を適切に表現できる。 他者と協働して持続可能な社会の形成が求められるグロー バル化する国際社会の諸課題を探究する活動を通して、よ りよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述する。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学 I	2	1 年	普通科

使用教科書	副教材等
新編 数学 I（数研出版）	3TRIAL I + A（数研出版）

科目の目標
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・数と式，図形と計量，二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	・命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	
・定期テスト、単元テスト（観点①②） ・各定期テストの課題や週末課題の内容（観点①③） ・ワークシートおよび授業への取り組み（観点②③）	

学習計画						
期 間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 ・ 中 間	第 1 章 数と式	多項式の加法減法 多項式の乗法 因数分解 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1 次不等式 絶対値を含む方程式	数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる	○		
			二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解している	○		
			問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる		○	
			不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる	○		
			不等式の性質を基に一次不等式を解くことができる		○	
			日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる		○	
			事象を数と式の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○
1 学 期 ・ 中 間	第 3 章 2 次関数	関数とグラフ 2 次関数のグラフ	二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している	○		
			二次関数の最大値や最小値を求めることができる	○		
			二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる		○	
			事象を二次関数の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 ・ 期 末	第3章 2次関数 第5章 データの分析	最大・最小 2次関数の決定 2次 方程式 2次関数のグラフと x軸との位置関係 2次不等式 データの整理 データの代表値 散らばりと四分位数 分散と標準偏差 変数の関係 仮説検定の考え方	二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる		○	
			二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解することができる 二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる	○		
			二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる		○	
			分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している	○		
			コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる	○		
			具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している	○		
			データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる		○	
			目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる		○	
			不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる		○	
			事象を二次関数やデータ分析の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○

2 学 期 ・ 中 間		数学 A を実施				
	第 4 章 図形と計量	三角比 三角比の相互関係 三角比の拡張 正弦定理 余弦定理 三角形の面積 空間図形への応用	鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している	○		
			三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している	○		
			正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる	○		
			図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる		○	
			図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる		○	
			事象を図形と計量の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○
2 学 期 ・ 期 末	第 2 章 集合と命題	集合 命題と条件 逆、対偶、裏 集合と証明	集合と命題に関する基本的な概念を理解している	○		
			集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる		○	
			事象を図形と計量、集合と命題の考えを用いて考察する良さを認識し、問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○
		数学 A を実施				
学 年 末		数学 II を実施				

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学Ⅱ	1	1年	普通科

使用教科書	副教材等
新編 数学Ⅱ（数研出版）	3TRIAL 数学Ⅱ（数研出版）

科目の目標
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・ いろいろな式についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している ・ 事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	・ 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとしている。
評価方法	
・ 定期テスト、単元テスト（観点①②） ・ 各定期テストの課題や週末課題の内容（観点①③） ・ ワークシートおよび授業への取り組み（観点②③）	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期・中間		数学Ⅰを実施				

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 期末		数学Ⅰを実施				
2 学期・ 中間		数学Ⅰを実施 数学Aを実施				
2 学期・ 期末		数学Aを実施				
学 年 末	第1章 式と証明 第2章 複素数と方程式	3次式の展開 3次式の因数分解 二項定理 多項式の割り算 分数式と計算 恒等式 等式の証明 不等式の証明 複素数と計算 2次方程式の解 と係数の関係 剰余の定理 因数定理 高次方程式	三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる	○		
			式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる		○	
			多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる	○		
			実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる		○	
			数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる	○		
			二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解している	○		
			因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる	○		
			日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる		○	
			事象をいろいろな式の考えを用いて考察するよさを認識し問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○

教科	科目	単位数	学年	集団
数学	数学 A	2	1 年	普通科

使用教科書	副教材等
新編 数学 A（数研出版）	3TRIAL I + A（数研出版）

科目の目標
数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・ 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・ 数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	・ 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・ 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたりしている。 ・ 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。
評価方法	
・ 定期テスト、単元テスト（観点①②） ・ 各定期テストの課題や週末課題の内容（観点①③） ・ ワークシートおよび授業への取り組み（観点②③）	

学習計画				
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点
				① ② ③
1 学期		数学 I を実施		

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期 ・ 中 間	第2章 図形の性質	三角形の辺の比 外心、内心、重心 チェバの定理 メネラウスの定理 円に内接する四角形 円と直線 2つの円 作図 直線と平面 空間図形と多面体	三角形に関する基本的な性質について理解している	○		
			円に関する基本的な性質について理解している	○		
			空間図形に関する基本的な性質について理解している	○		
			図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる		○	
			コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる		○	
			事象を図形の性質の考えを用いて考察するよさを認識し問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○
		数学Ⅰを実施				
2 学 期 ・ 期 末	第1章 場合の数と確率	数学Ⅰを実施				
		集合の要素の個数 場合の数 順列 組合せ 事象と確率 確率の基本性質 独立な試行と確率 条件付き確率 期待値	集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解することができる	○		
			具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる	○		
			確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる	○		
			独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる	○		
			条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる	○		
			事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる		○	
			確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる		○	
			確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる		○	
			事象を場合の数や確率の考えを用いて考察するよさを認識し問題解決にそれらを活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている			○
			問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている			○
学 年 末		数学Ⅱを実施				

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	物理基礎	2	1 年	普通科

使用教科書	副教材等
考える物理基礎（啓林館）	新課程版ネオパルノート物理基礎 （第一学習社）

科目の目標
物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	様々な物理現象を日常生活と関連付けながら理解し、観察、実験などに関する技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	様々な物理現象について、観察、実験などを通して探求し、規則性や関係性を見出して表現している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
定期テスト、小テスト（①、②） 実験レポート、ワークシート（②、③）	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 ・ 中間	第 1 部 物体の運動とエネルギー	・速さと速度 ・等速直線運動 ・速度の合成 ・相対速度 ・加速度 ・等加速度直線運動 ・重力加速度と自由落下 ・鉛直投射 ・放物運動	物理量の測定と表し方を理解している。	○		
	第 1 章 物体の運動		物体の運動の表し方について理解している。	○		
	・物理量の測定と扱い方 ・運動の表し方 ・直線運動の加速度		速度が変化する物体の直線運動についての実験を行い、得られたデータから、加速度について考察し、適切に表現している。		○	
	・物体の落下運動		物体が落下する際の運動の特徴について理解している。			○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 ・ 期 末	第2章 力と運動 ・力のつり合い ・運動の法則	・力とは何だろうか ・力の合成と分解 ・力のつり合い ・作用反作用の法則 ・慣性の法則 ・運動の法則	物体にはたらく力のつり合いを理解できる。	○		
			物体に一定の力を加え続けた時の運動に関する実験などを行い、物体の質量、働く力、生じる加速度の関係を考察して適切に表現できる。		○	○
2 学 期 ・ 中 間	第3章 仕事とエネルギー ・運動エネルギーと位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存 第2部 熱 第1章 熱とエネルギー ・熱と温度 ・熱の利用	・仕事 ・仕事の原理と仕事率 ・運動エネルギー ・位置エネルギー ・力学的エネルギーの保存 ・保存力と保存力以外の力 ・熱と温度 ・物質の三態と分子の熱運動 ・熱容量と比熱 ・熱量の保存 ・熱と仕事 ・熱機関と不可逆変化	運動エネルギーと位置エネルギーについて仕事と関連付けて理解できる。	○		
			力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて考察し、適切に表現できる。		○	○
			熱と温度について、原子や分子の熱運動の視点から理解できる。	○		
			熱に関する実験などを行い、熱の移動及び熱と仕事の変換について考察し、適切に表現できる。		○	○
2 学 期 ・ 期 末	第3部 波 第1章 波の性質 第2章 音	・波の伝わり方 ・波のグラフと位相 ・縦波と横波 ・波の重ね合わせ ・波の反射 ・音波の伝わり方 ・共振・共鳴 ・弦の振動 ・気柱の振動	波の性質について、波が伝わる様子を観察することを通して、直線状に伝わる場合を中心に理解できる。	○		
			気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて考察し、弦の振動、音波の性質を理解できる。		○	○
学 年 末	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 第2章 交流と電磁波 第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界	・静電気 ・電流と電気抵抗 ・様々な物質と抵抗率 ・抵抗の接続 ・電力と電力量 ・電流と磁界 ・電磁誘導 ・交流の発生 ・電気が家庭に届くまで ・電磁波 ・エネルギーの利用 ・放射線の性質 ・原子力の利用 ・物理学が拓く世界	電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを理解して、物質によって抵抗率が異なることを理解できる。	○		
			発電、送電および電気の利用について、基本的な仕組みを理解できる。	○		
			様々な物理現象とエネルギーの利用を日常生活や社会と関連付けながら、エネルギーとその利用について考察し、適切に表現できる。		○	
			日常生活や社会を支えている科学技術について考察し、適切に表現できる。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
理科	化学基礎	2	1 年	普通科

使用教科書	副教材等
高等学校 新化学基礎（第一学習社）	新課程版 教材パルポート化学基礎（第一学習社）

科目の目標
物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	化学と物質についての実験などを通して、化学の特徴、物質の分離・精製、単体と化合物、熱運動と物質の三態について理解するとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	化学と物質について、問題を見いだし見通しをもって実験などを行い、科学的に考察し表現しているなど、科学的に探究している。
③ 主体的に学習に取り組む態度	化学と物質について主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
評価方法	
・ 小テスト、定期テスト（①・②） ・ 実験レポート、提出物（②） ・ 提出物の内容、授業への取り組み（③）	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 中間	1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素	物質の分離 物質を構成する元素 元素の確認 物質の三態 原子のなりたち 同位体とその利用	混合物に含まれる成分を、その性質の違いによって分離する方法を選択できる。		○	○
			純物質は単体と化合物に分類されることを理解する。いくつかの元素には同素体があることを理解できる。	○		
			物質には三態があり、それぞれの状態変化には粒子の熱運動が関係していることが理解できる。	○		○
			原子の大きさや構造について知る。構成粒子の数から同位体の存在に気づき表現できる。		○	○

月	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期・ 期末	第1節 物質とその構成要素 第2節 化学結合	原子の電子配置 元素の周期律と周期表 イオンとイオン結合 イオンからなる物質 共有結合 分子の極性 分子間に働く力 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶	電子配置を知り、安定な電子配置が理解できる。	○		
			電子配置からイオンの生成を理解し、イオン結合を説明できる。		○	
			原子が安定な形をとるために共有結合し、分子を形成する仕組みが理解できる。また、様々な結晶の性質がわかる。	○		○
			自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解できる。	○		
2 学期・ 中間	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式	原子量・分子量・式量 物質と粒子の数・質量・気体の体積 溶解と濃度 化学反応式 化学反応式の量的関係	原子の相対質量、化学で用いるmolの概念が理解できる。	○		
			molから質量・粒子数・体積との関係が理解でき単位変換ができる。また、モル濃度を求め質量パーセントとの違いを理解し、単位変換ができる。		○	
			化学反応式やイオン反応式の書き方やそれらが表している内容を理解し、発表できる。		○	○
			化学反応式の係数が表している量的関係を理解できる。	○		
2 学期・ 期末	第2節 酸・塩基とその反応 第3節 酸化還元反応	酸と塩基 酸・塩基の強弱 水素イオン濃度とpH 中和と塩 中和の量的関係 中和滴定 中和滴定曲線 酸化と還元 酸化数	酸と塩基の性質・定義を理解し性質の強弱をpHを用いて示すことができる。	○		
			酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で表し、生成する塩の性質が理解できる。		○	
			実験観察を通して器具の使い方、実験操作、溶液の調整方法を理解する。さらに食酢の濃度を求め、中和反応の量的関係を理解する。		○	○
			酸化と還元はすべての原子やイオンが酸化数で示せることを理解する。	○		
学 年 末	第3節 酸化還元反応	酸化剤と還元剤 金属のイオン化傾向 金属の反応性 電池 電気分解	酸化還元反応の化学式を作ることができ、この量的関係を理解している。	○		
			金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを表現できる。		○	
			金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考え表現できる。		○	○
			電池・電気分解の仕組みを理解し、各極での物質の変化・変化量を説明し求めることができる。		○	

※ 定期テストで「知識・技能」および「思考・判断・表現」をはかる。

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	体育	3	1 年	普通科・商業科

使用教科書	副教材等
現代高等保健体育（大修館書店）	

科目の目標 体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

① 知識・技能	- 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の多様性や体力の必要性について理解している。 - 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動が豊かに継続することができるようにするための技能を身に付けている。
② 思考・判断・表現	自己や仲間の課題や豊かなスポーツライフを継続するための課題を発見し、 - 合理的、計画的な解決に向けて思考し判断する力を身に付けている。 - 解決の仕方や気付いたこと等について自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、 - 公正、協力、責任、参画、共生などの意欲を高めようとしている。 - 健康・安全を確保したり、運動を主体的に取り組もうとしている。

評価方法 - 運動の知識・技能の点検、確認、分析（①、②） - 記述の点検、確認、分析（①、②） - 行動の観察、確認（③）

学習計画						
期間	領域	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	体づくり運動	体ほぐしの運動（集団行動、体ほぐし）	集合、整頓、列の増減、方向変換などの仕方を理解し、行動することができる。	○		
			定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につながる意義があることを理解している。	○		
			いろいろな体ほぐしの運動を行うことを通して、気付いたり、仲間と関わり合ったりしている。		○	
			集団行動や体ほぐし運動に自主的に取り組むとともに、健康・安全を確保し活動している。			○
	陸上競技	短距離走（競争）（50m走、男子1500m走・女子1000m走）	記録の向上につながる動きのポイントを理解し、技術と関連させた運動や練習を継続して行うことができる。	○		
			合理的なフォームを身に付けることでタイムの短縮を図ることができる。	○		
			自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、結果を冷静に受け止め、課題解決に向けて、お互いに助け合い、教え合おうとしている。			○
	水泳	クロール、平泳ぎスタート、ターン	各種目で用いられる技術の名称やポイントを理解し、それぞれの技術を実践することができる。	○		
			合理的な動きと自己の動きを比較して、成果や改善すべきポイントを見付けることができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、事故防止の心得を遵守し健康・安全を確保している。			○

2 学 期	体育理論	スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展	スポーツの歴史的発展と多様な変化、現代スポーツの意義や価値について理解している。	○		
			自己や社会にスポーツがもたらす影響について課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに他者に伝えることができる。		○	
			課題を発見するための意見交換などの学習に自ら進んで取り組んでいる。			○
	体づくり運動	実生活に生かす運動の計画 （新体力テスト、体力を高める）	運動には体力向上の原則があることを理解し、運動のねらいやバランスを考え、自分にあった運動を計画し取り組むことができる。	○		
			運動のねらいや体力の程度を踏まえ、自己や仲間の課題に応じた強度、時間、回数、頻度を設定することができる。		○	
			自主的に取り組むとともに、危険の予測をしながら回避行動をとるなど、健康・安全を確保している。			○
	球技	男子　ベースボール型 （ソフトボール）	選択した球技において、用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
		女子　ネット型 （バレーボール）	選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○	
			球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○
	球技	男子　ゴール型 （サッカー）	選択した球技において、用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、学習した具体例を挙げている。	○		
			役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすることができる。	○		
	女子　ゴール型 （バスケットボール）	選択した球技について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。		○		
		球技の学習に自主的に取り組もうとしている。			○	
3 学 期	陸上競技	長距離走	自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	○		
			記録の向上に有効な練習方法のやり方について、自己の考えを伝えることができる。		○	
			一人一人の技能の違いに応じた課題に自主的に取り組んでいる。			○
	球技（選択）	男子 （バスケットボール、バレーボール、テニス）	選択した球技において用いられる技術や戦術、作戦には名称があり、それらを身に付けるためのポイントについて、理解している。	○		
			安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。	○		
		女子 （バドミントン、サッカー、テニス）	攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。		○	
		自主的に取り組み、互いに助け合い、教え合おうとしている。			○	

教科	科目	単位数	学年	集団
保健体育	保健	1	1 年	普通科・商業科
使用教科書		副教材等		
現代高等保健体育（大修館書店）		現代高等保健体育ノート（大修館書店）		

科目の目標 保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成することを目指す。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。				
--	--	--	--	--

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・現代社会と健康について、理解を深める。 ・安全な社会生活について、理解を深めるとともに、応急手当を適切にできる。
② 思考・判断・表現	・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し、判断するとともにそれらを表現することができる。 ・安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・自他の健康やそれを支える環境づくりに関心をもつことができる。 ・生涯を通じて健康の保持増進や回復を目指す実践力をつけている。
評価方法	
・知識・技能の点検、確認、分析（定期テスト、小テスト、応急手当スキルテスト、学習プリント・ノート等）①、② ・記述の点検、確認、分析（学習プリント・ノート、グループワーク等）①、② ・行動の観察、確認（課題レポートやその他提出物等への取組状況、授業への取組状況 等）③	

学習計画						
期間	項目	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	現代社会と健康	(7) 健康の考え方	国民の健康水準の向上や疾病構造の変化について理解している。	○		
		・ 国民の健康課題	健康の考え方について、課題を発見し、解決の方法を思考し、判断するとともに、それらを表現することができる。		○	
		・ 健康の考え方と成り立ち	健康の考え方について、健康に関する資料を見つけたり、自分達の生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
	現代社会と健康	(4) 現代の感染症とその予防	感染症の発生や流行、その予防について、理解している。	○		
			感染症とその予防について、課題を発見し、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。		○	
			感染症とその予防について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
		(5) 生活習慣病などの予防と回復	健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。	○		
			生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、個人の取組や社会的な対策を整理している。		○	
			生活習慣病の予防や回復について、課題解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

2 学期	現代社会と健康	(エ) 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	喫煙と飲酒が生活習慣病などの要因になることや、薬物乱用が心身の健康や社会に深刻な影響を与えていることについて理解している。	○		
		・ 喫煙、飲酒と健康 ・ 薬物乱用と健康	喫煙や飲酒、薬物乱用について、課題を発見し、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。		○	
			喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
		(オ) 精神疾患の予防と回復	精神疾患の予防と回復には、調和のとれた生活の実践や早期の心身の不調への気づき、様々な方法でストレスを緩和することが重要であることを理解している。	○		
		・ 精神疾患の特徴 ・ 精神疾患への対処	精神疾患の予防と回復について、課題を発見し、健康を支える環境づくりと解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができる。		○	
			精神疾患の予防と回復について、課題解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
3 学期	安全な社会生活	(7) 安全な社会づくり	安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であることを理解している。	○		
		・ 事故の現状と発生要因 ・ 安全な社会の形成 ・ 交通安全	安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。		○	
			課題解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○
	安全な社会生活	(イ) 安全な社会づくり	応急手当には、正しい手順や方法があり、傷害や疾病の悪化を軽減できることや時間とともに身体が損なわれていくことを理解している。	○		
		・ 応急手当の意義 ・ 日常的な応急手当 ・ 心肺蘇生法	心肺蘇生法などの応急手当の方法を理解し、適切に行うことができる。	○		
			安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。		○	
			応急手当の実習などの学習活動に意欲的に取り組んでいる。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	音楽Ⅰ	2	1年	普通科・商業科

使用教科書	副教材等
高校生の音楽1（教芸）	楽譜，資料プリント，ワークシート（適宜配布）

科目の目標
音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。 (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。 (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
② 思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	
歌唱及び器楽の実技発表、レポート、筆記試験、授業態度	

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期 中間・ 期末	歌唱 器楽 鑑賞	歌唱 「校歌」 「翼をください」 「野ばら」(シュベール) 「君を愛す」(ベートーヴェン) 器楽 「威風堂々」 「クラヴィングカルテット第1番」 鑑賞 「交響曲第9番」(ベートーヴェン) 西洋音楽史(古代ギリシャ、中世・ルネサンス、バロック、古典派)	(知)曲想と音楽の構造や歌詞、文化的歴史的背景との関わりについて理解している。	○		
			(技)創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表現している。	○		
			(思)テクスチャ、強弱、形式を知覚し、それらの働きを感じながら、近くしたことから感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。		○	
			(態)ドイツ語の歌詞を理解し、明朗かつ豊かな発声で歌うことに興味をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。			○
			(技)創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表現している。	○		
			(思)音色、リズム、速度を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことから感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。		○	
			(態)リコーダーの奏法や音色に関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。			○
			(知)曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	○		
			(思)旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことから感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。		○	
			(態)古代ギリシャから古典派音楽までの音楽の特徴、交響曲と声楽の融合などに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			○

期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
2学期中間・期末	歌唱 器楽鑑賞	歌唱 「我が太陽」 「カーロミオベン」 「ふるさと」(合唱) 器楽 「木星」 「Happy Birthday To You」 鑑賞 「菩提樹」(シュペールト) 「ポロネーズ英雄」(ショパン) オペラ「椿姫」(ヴェルディ) 「西洋音楽史」(ロマン派) 諸民族の音楽	(知)言葉の特性と曲種に応じた発生との関わりについて理解している。	○		
			(知)我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。	○		
			(技)創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。	○		
			(思)リズム、旋律、速度を知覚し、それらの働きを感じながら、近くしたものと感受したものととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。		○	
			(態)イタリア語歌詞の意味を理解し、表情豊かに歌うこと、合唱において、各パートを確実にバランスよく合唱することに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の活動に取り組もうとしている。			○
			(知)曲想と学期の音色や奏法との関わりについて理解している。	○		
			(技)創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。	○		
			(思)音色、リズム、速度などを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。		○	
			(態)リコーダーアンサンブルの楽しさ、ギター奏法の基礎に関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。			○
			(知)曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	○		
			(知)音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。	○		
			(思)旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。		○	
			(態)ロマン派音楽の主たる作曲家と作品、諸民族の音楽に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			○
学年末	鑑賞 器楽	鑑賞 交響詩「魔法使いの弟子」(ディカ) ミュージカル「ウェストサイドストーリー」(バーンスタイン) 西洋音楽史「近代の音楽」 日本音楽の流れ 雅楽「陵王」「六段の調」 器楽 「いつも何度でも」	(知)曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	○		
			(知)我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。	○		
			(思)旋律、形式、構成などを知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。		○	
			(態)近代の音楽、ポピュラー音楽及び日本音楽の流れに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。			○
			(知)様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。	○		
			(技)創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他社との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。	○		
			(思)音色、リズム、速度とそれらの働きを感じながら、知覚したものと感受したものととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。		○	
			(態)リコーダーと伴奏との融合、ハーモニーの美しさに関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。			○

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	美術 I	2	1 年	普通科・商業科

使用教科書	副教材等
美術 I 光村図書	資料 他

科目の目標
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。 (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
② 思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に絵画・彫刻などの表現創造活動に取り組もうとしている。

評価方法
スケッチブック（授業時の記載内容・制作過程スケッチ各種・配布プリント記入）、提出作品、道具の準備や取扱、用具や技法の知識、授業態度

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学期	レタリング	書体デザイン レタリング	自分の氏名に係る書体（漢字）への知識と理解	○		
			書体に対する理解とバランスのとり方		○	○
			丁寧で緻密な作業への取組み	○		○
			スケッチブック表紙への仕上げ（提出作品）	○		○
			本課題の感想反省プリント		○	
	色彩基礎	色彩	色についての基礎知識	○		
	デザイン表現	デザイン	作品群からコンセプトを読み取る感性	○	○	
			コンセプトに合ったデザインの創造制作		○	○

期 間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
2 学 期	透明水彩絵の具 による基礎技法	水彩表現	道具の準備や扱い方が適切である			○
			技法の理解と習得	○		
			透明水彩絵の具の特性と表現効果についての理解	○		
			技法の併用や創造的活動の有無	○	○	
	絵 画 (抽象表現)	抽象の世界 資料プリント	抽象表現についての理解	○		○
			道具の準備や扱い方が適切である			○
			技法の効果的な活用	○	○	
			主体的で、能動的な制作姿勢			○
			作品鑑賞力(構図色彩技法 等)	○	○	○
	絵 画 (具象表現) (写実表現)	線遠近法 図 法	遠近法について理解	○		○
			透視図法(一点～三点)について理解	○		
		デッサン	画面構成力ー画面に対象物を適切に入れる美意識	○	○	
			客観的なモチーフのとらえ方、適切な測り棒の使い方や鉛筆の使い方	○		
			明度や質感の表現力	○		
		人 物 スケッチ クロッキー	速やかで適切な画面構成力	○	○	
			速やかな形取りや比率読み	○	○	
			適切な鉛筆の使い方(鉛筆選択持ち方筆圧線種)	○	○	○
			全体的に手を入れていく	○		○
3 学 期	彫 刻 (半抽象)	彫 刻 (人物塑像)	半抽象表現の理解	○		○
			発想力を働かせた創造的なアイデアやイメージスケッチ		○	○
			粘土の素材感の理解と造形力	○		
			本課題の感想反省プリント		○	

教科	科目	単位数	学年	集団
芸術	書道 I	2	1 年	普通科・商業科

使用教科書	副教材等
書道 I（光村図書）	なし

科目の目標
書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点とその趣旨	
① 知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的、創造的に表現するために必要な技術を身につけて表している。
② 思考・判断・表現	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。
③ 主体的に学習に取り組む態度	・書の伝統と文化に豊かに関わり、主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	
①知識・技能	授業時に実施する課題作品と小テスト
②思考・判断・表現	課題作品や感想
③主体的に取り組む態度	毎時間の授業態度

学習計画						
期間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1学期・中間	書写から書道へ	漢字の書	中学校までの国語科書写との違いを知り、書の学びへの関心を高める。	○		
	漢字の変遷と様々な書体		漢字の書体の変遷と特徴を知る。	○		
	楷書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑		唐代の楷書を通して、書の歴史に触れながら書風を知る。	○	○	
			臨書することで、字形や線質、点画の特徴をとらえ、用筆・運筆の技法を習得する。	○	○	

期 間	単元名	使用教科書項目	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
				①	②	③
1 学 期 ・ 期 末	孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 篆刻	漢字の書	臨書することで、字形や線質、点画の特徴をとらえ、用筆・運筆の技法を習得する。	○	○	
			篆書の特徴を学び、書における篆刻印の意義を知る。	○	○	
			自分の姓名印を篆刻の手順に沿って制作する。		○	○
2 学 期 ・ 中 間	行書 蘭亭序 風信帖	漢字の書	書聖 王羲之について蘭亭序が書かれた背景を知り、内容を味わい臨書しながら、その書法の趣をとらえる。	○	○	
			日本の書である空海の風信帖を臨書し、中国と日本の書の関係性を学ぶ。三筆・三跡の書を鑑賞し学ぶ。	○	○	
2 学 期 ・ 期 末	作品制作 李嶠詩 木簡 真草千字文 牛橛造像記	漢字の書	さまざまな書体書風の中から作品を制作する。作品を制作する取り組みの中で、どう書きたいのか自分と向き合い、試行錯誤する課程で自ら生み出す体験や書作展に出品することで、生み出した作品を人に見てもらう喜びを味わう。		○	○
学 年 末	仮名の単体・連綿 蓬萊切の臨書 創作作品	仮名の書 漢字仮名交じりの書	仮名の生まれた背景を知り、線質や流動的な連綿技法をふまえて、古筆の臨書をする。中国の書とは違う日本の平安時代の美意識を知る。	○	○	
			漢字と仮名の混在する文言を自分で決め、学習済みの書の表現方法を活かしながら、自ら構想する書作品を創作する。筆法だけでなく、紙面の空間余白を構成して、表現の工夫をする。		○	○

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	1	普通科・商業科

使用教科書	副教材等
Vivid English Communication Ⅰ	Vivid English Communication Ⅰ 予習・授業ノート Vivid English Communication Ⅰ WORKBOOK

科目の目標 外国語（英語）学習の特質を踏まえ、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領第1 款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1 款の（3）に示す資質・能力を育成する。
--

評価の観点とその趣旨	知識・技能 ・外国語（英語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語（英語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。 思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語（英語）で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。 主体的に学習に取り組む態度 外国語（英語）の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語（英語）を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
-------------------	---

指導と評価の計画（領域：L=Listening, R=Reading, I=Spoken Interaction, P=Spoken Production, W=Writing）

時期	単元	CAN-DOリスト・単元目標に基づく言語活動					総括のための観点別評価の記録				
		中心領域		単元目標に基づく言語活動 (Goal Activity/Task)			Paper Test		PerformanceTest		
		CE FR	ID				L	R	I	P	W
			領域								
4	1	A2	R	1	SNSを利用する際に注意すべき点、利点と欠点等について読み取る。		知				
4		A1	W	②	SNS利用時の注意点を踏まえながら、最近の出来事や好きな店などについて基本的な語句や表現を用いて伝える活動。						知思態
4	2	A2	R	1	チョコレートの歴史について理解し、内容を整理して表にまとめる。		知思				
5		A1	I	②	好きな食べ物について、歴史やその食べ物のいいところなどをまとめ、プレゼンテーションをし簡単な質疑応答をする活動。						知思態
5	3	A2	L	1	羽生弦選手についての映像を視聴し、彼のスケートや地元に対する思いや内容について理解する。	知					
6		A2	W	1	羽生選手の活躍についての理解を踏まえ、彼の取り組みについて感動したり尊敬したりする点を盛り込んだ応援メッセージを書く活動。						知思態
6	4	A1	R	1	eスポーツの歴史や特徴を理解し、内容を整理してまとめる活動。		知思				
7		A2	P	1	創作したゲームキャラクターに関する説明文を聞き手に配慮しながら書き、わかりやすく伝える活動。						知態
9	5	A2	R	1	野村萬斎さんの活躍について理解し、日本の伝統芸能を次世代に伝える彼の取り組みについて読み取る活動。		知				
9		A2	I	1	イラストや写真の描写をし、ペアで相手の説明に対して質問やコメントを返す活動。						知態
9	6	A2	L	1	「この世界の片隅に」の特徴について理解し、一場面のシナリオを聞きとる活動。	思態					
10		A2	P	1	「この世界の片隅に」の一節を演じる活動。						思態
10	7	A2	R	1	コンビニエンスストアを例に挙げ、24時間営業の利点と欠点について要点をまとめ、リスト化する。		知				
11		A2	I	1	ディスカッションの留意点を踏まえながら、他の生徒が考案したオリジナル店舗の営業時間と内容の賛否について、話し合う活動。						知思態
11	8	A2	L	1	AIの特徴や活用事例について内容を整理する。グラフの内容を説明している英文に慣れる。	知					
12		A2	P	1	AIに関係するグラフを読み取り、その内容を伝え合う活動。						知思態
1	9	A2	R	1	海洋プラスチック汚染の原因と問題点について読み取る。		知				
2		A2	W	1	身の回りの環境問題を見つけ、改善を訴えるための文章を書く活動。						知思態
2	OP	A2	R	1	ストーリーの展開を的確に理解する活動。		知態				
		A2	P	1	ストーリーの内容を活用して、スピンオフや続きのストーリーを考え伝える活動。						知思態

教科	科目	単位数	学年	集団
外国語	論理・表現I	2	1	普通科

使用教科書	副教材等
EARTHRISE English Logic and Expression I Standard	EARTHRISE English Logic and Expression I Standard ワークブック

科目の目標 外国語（英語）学習の特質を踏まえ、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことの三つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、学習指導要領第1款の（1）及び（2）に示す資質・能力を一体的に育成するとともに、その過程を通して、第1款の（3）に示す資質・能力を育成する。
--

評価の観点とその趣旨
知識・技能 ・外国語（英語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語（英語）の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語（英語）で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを必要に応じて活用しながら、適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度 外国語（英語）の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語（英語）を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

指導と評価の計画（領域：L=Listening, R=Reading, I=Spoken Interaction, P=Spoken Production, W=Writing）

時期	単元	CAN-DOリスト・単元目標に基づく言語活動					総括のための観点別評価の記録		
		中心領域		単元目標に基づく言語活動（Goal Activity/Task）			Performance Test		
		CE FR	ID 領域				I	P	W
4	1	A1	I	②	新しいクラスメートについて知るために情報を聞き出したり、相手の質問に答えたりする。		思態		
5	2	A1	P	③	週末にしたことについて、クラスメートに伝えたり、相手からの質問に答えたりして、その内容を整理してクラスで発表する。			思態	
5	3	A2	W	1	自分が行ったことがある場所について、情報を伝える文章を書くことができる。				思態
6	4	A2	I	2	地図と経路を見ながら、観光客に適切なルート案内をする。また、会話のロールプレイをする。		知思		
6	5	A2	W	2	自分が後悔したことについて、事実と自分の気持ちを整理し、述べる文章を書くことができる。				思態
7	6	A2	P	2	自分が選んだ内容について、クラスメートに伝え、その内容について整理し、発表する。			思態	
9	7	A2	I	2	自分の進路について、自分の考えをレポートにまとめ、グループ内で内容を共有したり、質問し合ったりする。		思態		
9	8	A2	I	2	部活動に関して、自分の考えを整理する。また、相手に質問したり、相手の質問に答えたりして、ロールプレイする。		思態		
10	9	A2	P	2	環境保護のためにしていることについて、内容を整理して発表する。			知思態	
10	10	A2	W	2	自分が最近したスポーツについての情報や、自分の気持ちを伝える文章を書くことができる。				知思態
11	11	A2	I	2	様々な国の労働時間や祝日の数についてクラスメートに伝えたり、相手からの質問に答えたりする。		知思態		
11	12	A2	W	2	自分の尊敬する人についての情報や自分の考えを整理し、述べる文章を書くことができる。				知思態
12	13	A2	P	2	歴史上の偉人についてクラスメートに伝えたり、その内容を整理して発表する。			知思態	
1	14	A2	I	2	自分が行きたい国についてクラスメートに伝えたり、質問に答えたりする。また、内容を整理し、発表する。			知思態	
1	15	A2	W	2	自分が興味のある職業についてクラスメートに伝える。また、将来の職業について自分の考えを整理し、文章を書くことができる。				知思態
2	巻末	A2	W	2	Expressions Plus : Lesson 1～Lesson 15				知態